

第5学年 道徳学習指導案

日時：平成26年10月7日(火) 第5校時

場所：5年教室（3皆）

授業者：神谷 聖子

児童数：男20名、女17名

1 教材名：「思い違い」節度1ー（1）

2 指導の立場

(1) 子どもの実態

男子20人、女子17人でふれあいタイムには、外へ行き元気に遊ぶことができるクラスである。しかし楽しいことに夢中になってしまい、節度のない行動をとってしまうことがある。インターネットを使う授業の時には、どの子も検索をかけ情報を得ることができる。しかしのめり込むあまり、授業の終わる時間になっても終われなかったり、関係のないサイトへ入ってしまうことがある。大人が知らないうちに危険に直面しないよう、事前指導し、自分の生活を振り返り、インターネット・ケータイなどを使う時や日常生活でも節度ある行動をしようという態度を育てたい。

(2) 本時の指導について

【自分の考えをもつための指導方法の工夫】

主人公に共感できるよう、節度に関するアンケート結果をICTを使い提示し、自分たちの姿を見つめ、価値への方向付けをするようにする。場面を「毎日深夜までメールを送り続けているママは、どんな気持ちだったのか。」「1日、二人に声をかけられないまま学校を後にしたママは、どんな気持ちだったか。」「ふうっと息をついたママは、どんな気持ちだったのか。」「なんてバカな生活をしていたのだろうと考えたママはどんな気持ちだったのか」の4つの場面に分けるのはママの気持ちを考えさせる。

【自分の考えを伝え合うための指導方法・指導形態の工夫】

情報モラルでは「相手の気持ちを考えて返信すること」を大切にすることを学んだが、本時では「返信の言葉」や「すぐに返信すること」を気にするあまり深夜までメールをしていることを確認させる。深めの発問で「相手の気持ちを考えて、返信しようとするのは、バカな生活だったのですか？」と尋ねることで価値を認識させるようにする。

3 本時のねらい

自分の生活を見つめ直すことを通して、自分の力ではなく便利な物に頼ってしまったり、おもしろいものなどに依存してしまったりする自分の弱さに気づき、節度を守り、節制しようとする態度を育てる。

4 本時の展開

深めの発問 ※ICT活用について

| 過程   | 過程の目標  | 主な学習活動  | 指導・援助   |
|------|--|---|---|
| つかむ  | ○本時のねらいとする価値が分かる。  | 1 友だち関係や、節度に関するアンケート結果を提示し、説明する。<br>・友だちとの約束はどのようにしますか？<br>・どういう時に自分たちは友だちだと思いますか？<br>・友だちとけんかしたことはありますか？<br>・友だちとけんかやトラブルがあったときどのように解決しましたか？   | ※電子黒板でアンケート結果を提示する。<br>・資料への関心を持たせると共に、価値への方向付けをする。   |
| ふかめる | ○あらすじを知り、感想をもつことができる。<br><br>○メールで友だち関係を築こうとするママの気持ちに共感することができる。<br><br>○友だちからの返信がこず、悪い方へ考えてしまう主人公に共感することができる。<br><br>○自分が深刻に思っていたが、思い違いをしていた時の主人公の気持ちに共感させる。<br><br>○ケータイだけに頼りすぎてしまった自分の生活を見直している主人公の気持ちに共感させる。<br><br>○自己の生活を振り返り、節度ある生活について考えることができる。 | 2 資料の範読を聞き、ママについて感想を発表する。<br>・友だちとずっとメールのやりとりができるからうれしい。<br>・メールの返信を絶対しなければいけないという気持ちが分かる。<br>・メールを終わらせるのは難しい。<br><br>3 主人公の気持ちを考える。<br>○毎日深夜まで、メールを送り続けるママは、どんな気持ちだったでしょう。<br>・友だちを大切にしたい。<br>・絶対に返信しなくちゃ。<br>・友だちとの関係が崩れてしまったら怖い。<br>・無視したと思われてしまったら大変。<br><br>○1日、二人に声をかけられないまま学校を後にしたママは、どんな気持ちだったでしょう。<br>・私の悪口を言われているのかな。<br>・私のメールの内容が悪かったのかな。<br>・嫌われてしまったのかもしれない。<br><br>○ふうっと息をついたママはどんな気持ちだったでしょう。<br>・なんだそんな理由だったのか。<br>・無視されていたんじゃないか。<br>・わたし一人思い違いをしていたんだ。<br><br>◎なんてバカな生活をしていたのだろうと考えたママはどんな気持ちだったのだろう。<br>・ケータイだけで、友だち関係を築こうとしていたなんて。<br>・本当の友だちは、ケータイの返信が無いだけで、怒ったり、嫌ったりしないよね。直接話すことが大切だよ。 | ・ケータイをやっと買ってもらえてうれしいなど、ママの気持ちに共感させたり、批判的な気持ちを引き出したりする。<br>※電子黒板で動画を視聴する。<br><br>・「友だちとの関係が崩れてしまったら、怖い」と言うママの気持ちに共感させる。<br><br>・本時の主人公は気を付けることができていることを気付かせる。<br><br>・依存症のようになって、ケータイでうまくいっていないと不安になるママの気持ちをおさえる。<br><br>相手の気持ちを考えて、返信しようとするのは、バカな生活だったのですか？<br><br>・ママの心情の変化について考えさせ、ケータイに依存してしまい、友だち関係をケータイだけで築こうとしていた自分を振り返るママの気持ちに共感させる。 |
| まとめる | ○節度ある生活をしていこうとする気持ちをもつことができる。  | 4 自分の生活を振り返る。<br>○今まで節度を守れなかったことに、どんなことがありますか。<br>・インターネットを夢中になり過ぎて、決まった時間を過ぎても見続けて、しまった。<br><br>5 教師の説話を聞く。<br>・教師の体験から、節度を守り、節制に心がけて生活することの大切さを話す。  | ・生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心がけようという気持ちをもつことができるようにする。   |